

フィールドスタディー(24年春) 玉村町歴史資料館(佐波郡玉村町)、群馬県立歴史博物館(高崎市)、かみつけの里博物館(高崎市)

今回もお弁当を持ってお出掛けです/まず、本日のスケジュールの説明があります



玉村町歴史資料館(佐波郡玉村町)



オトカ塚遺跡馬形埴輪(古墳時代後期/6世紀後半)



中世の石造物



小泉大塚越遺跡の地層



平成18年度 第11回 企画展

天明三年浅間山やま やけ どろ おし焼泥押と玉村町

会 期 ■ 平成18年8月3日(木)～8月27日(日)

開館時間 ■ 午前10時～午後4時

会 場 ■ 玉村町歴史資料館常設展示室内フリースペース

入 館 料 ■ 無料

休館日 ■ 月曜日

天明三年浅間山の大噴火

天明3年(1783)5月(新暦)より活動を始めた浅間山は、間隔をあげながら噴火を繰り返し、徐々に激しさを増していき、8月に入るとさらに激化します。

そしてついに8月5日午前10時頃大爆発、麓の鎌原村(現吾妻郡嬭恋村)は壊滅状態、50km下流の玉村町域も吾妻川から利根川に流れ込んだ泥流に巻き込まれました。

噴火による被害は甚大で、死者は1,000人を超え、流失家屋1,000棟以上、復興への道のりは長く、農作物への影響など傷跡は後年まで残ります。

中町遺跡(玉村町上福島)

遺物から知る当時の暮らし

礎石の配置から東西2間(3.6m)×南北2間以上の規模が推測される建物が見つかりました。

北西隅からは囲炉裏が確認され、その上からは銅製のやかんが出土しました。かたちや大きさ、取っ手の鋳など、渋川市中村遺跡出土のものと酷似します。

さらに囲炉裏の脇には桶が置かれ、泥流に残るタガや網目の圧痕から、桶の上にザルが載っていたことが考えられます。そしてその出土位置からザルには陶磁器碗が、桶には砥石がそれぞれまどまって収められており、当時の収納を考える上で貴重な事例といえます。

また出土した陶磁器には、それまで流通

遺跡からみる被害の実態

上福島中町遺跡（玉村町上福島）

泥流に埋まった10棟の建物

建物跡（母屋・納屋）10棟・便所6棟・井戸2基・畑・溝・道等が確認され、数多くの生活道具が出土しました。10棟はいずれも礎石を使用しています。

中でもⅥ区1号建物跡は、西側・北側の壁が泥流中で土壁と分かるように残されていたほど良い状態でした。建物の規模は、東西の間口9.58m×奥行き6.72mを測ります。柱の痕跡・壁・床材が確認されました。中央やや北寄りに囲炉裏を設け、入り口の左手から置き竈が見つかりました。陶磁器類は囲炉裏周辺部に集中していました。この他、砥石・石臼・金属製品・銭が出土しています。



検出された壁および柱痕

まともな出土した陶磁器には、それまで流通量の少なかった磁器が目立ちます。こうした背景には長崎県波佐見窯「くらわん手」に代表される日常雑器の量産化を目指した肥前諸窯の生産体制があります。その結果、18世紀後半には北関東をふくむ国内農村に肥前諸窯磁器が流通することになったのです。

砥石は桶と考えられる容器の中から五本まとめて出土しました。その内訳は荒砥1、中砥3、仕上砥1であり、研磨に必要な種類がそろっています。仕上砥の出土は農具以外、例えば剃刀・小刀などの研磨に使われたことが考えられます。また桶の中での収納は毎日の使用が窺われ、均質に磨り減った使用痕は、研磨に手馴れた人物を思わせます。



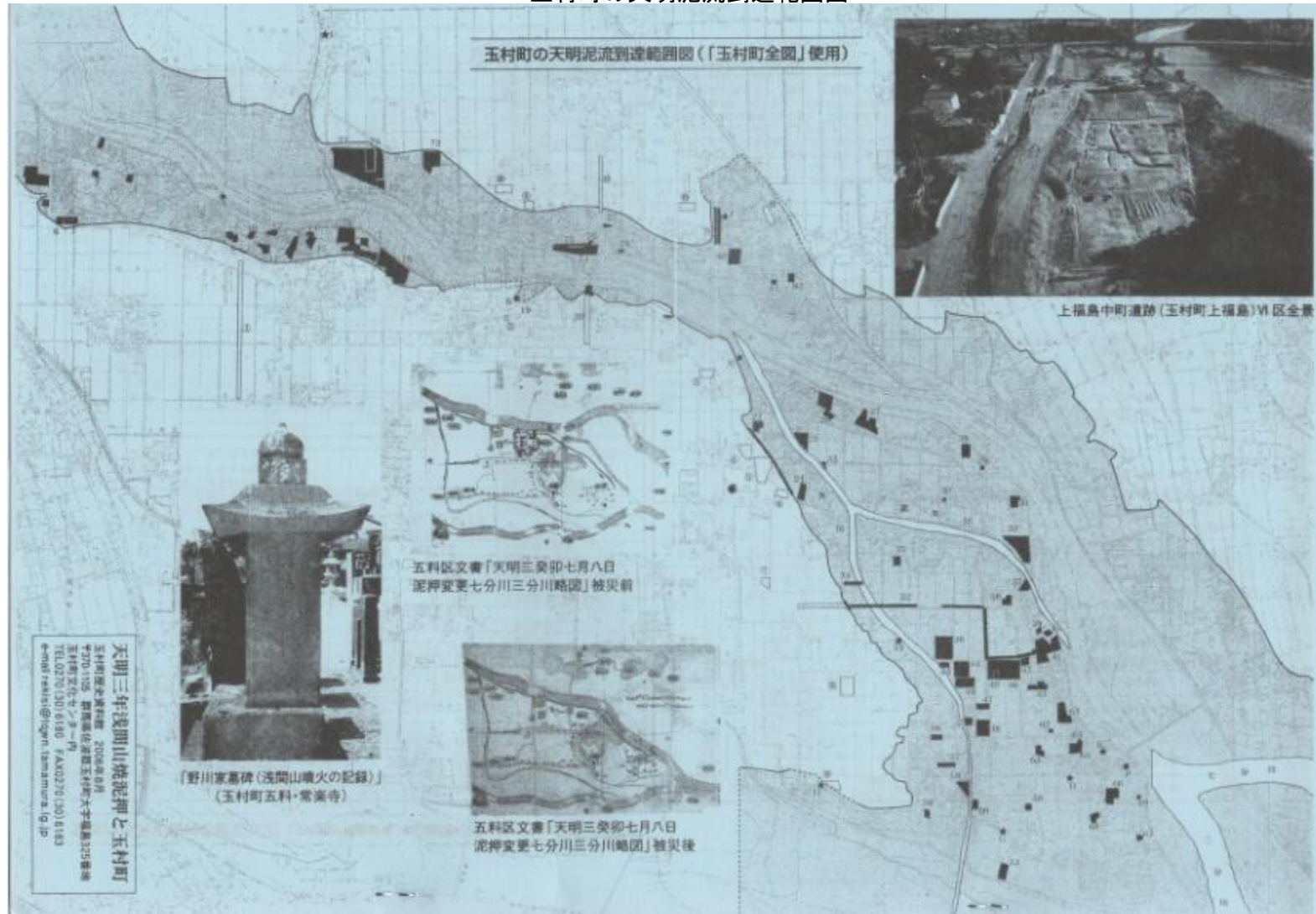
陶磁器碗

やかん（銅製）



砥石

玉村町の天明泥流到達範囲図





この資料館には移築された玉村町第15号墳の石室がある

ひょう ちゆう こ りん そう りん
『上毛古墳綜覧』玉村町第15号墳の移築石室

| | |
|---------|-----------------------|
| 古墳名 | 『上毛古墳綜覧』玉村町第15号墳 |
| 古墳所在地 | 玉村町大字角原2762 |
| 発掘調査年月日 | 昭和41(1966)年12月19日～29日 |
| 復原施工期間 | 昭和42年(1967)年10月8日～16日 |
| 調査報告書 | 群馬大学教育学部史学第2研究所 |

玉村町に古墳が出現したのは古墳時代前期で、今から1600年以上前です。草部山古墳や三角縁神獣鏡が出土した稲荷山古墳などがその頃に造られたと考えられています。その後古墳の造営は続き、6世紀(今から約1500年前)になってから、急激にその数を増やしていきました。

昭和10年の県下一斉の古墳調査によれば、玉村町には53基が『上毛古墳綜覧』に記載され、その後、新たに発見された古墳を含めると、現在では約150基を超えたと考えられています。

しかしながら、昭和30年以降の土地改良などにより、今ではその姿はほとんど地上から失われてしまいました。

この移築された石室は、農業構造改善にともなう土地基盤整備事業により本来は調査後撤去される予定のものを移築したものです。比較的遺存状態が良好で、この地域における後期の石室の特徴を多く残していることから、移築復原をすることとなりました。

石室には、6世紀中頃に噴出した榛名山二ツ品から産出した軽石(角閃石安山岩)が、用いられ、3面ないし5面を割り交互に構んでいく互白積みを採用しています。また、石室には1石をL字状に整形し組み込むなど、高度な技術も使われています。

| | |
|------|-----------------------------------|
| 墳形 | 円墳(約径12m) |
| 主体部 | 角形石室六式石室 |
| 方室長 | 3.30m 玄室巾【奥】1.18m【中】1.60m【前】1.50m |
| 羨道長 | 2.40m 羨道巾【奥】1.50m【前】1.20m |
| 天井部 | 不詳 |
| 使用石材 | 【玄室】角閃石安山岩 【羨道】角閃石安山岩・安山岩 |
| 出土遺物 | 【石室】鉄鏝片、刀子片 【溝内】円筒埴輪・滑石鏝片 |
| 時期 | 6世紀後半 |

遺跡分布図

移築石室図

平成12(2000)年 玉村町教育委員会

| | | |
|---------|-------|-----------------------|
| 古墳原位置 | ————— | 玉村町大字角淵2762 |
| 発掘調査年月日 | ————— | 昭和41(1966)年12月19日～29日 |
| 復原施工期間 | ————— | 昭和42年(1967)年10月8日～16日 |
| 調査復元指導 | ————— | 群馬大学教育学部史学第2研究所 |

玉村町に古墳が出現したのは古墳時代前期で、今から1600年以上昔です。軍配山古墳や三角縁神獸鏡が出土した稲荷山古墳などがその頃に造られたと考えられています。その後も古墳の造営は続き、6世紀(今から約1500年前)になってから、急激にその数を増やしていきました。

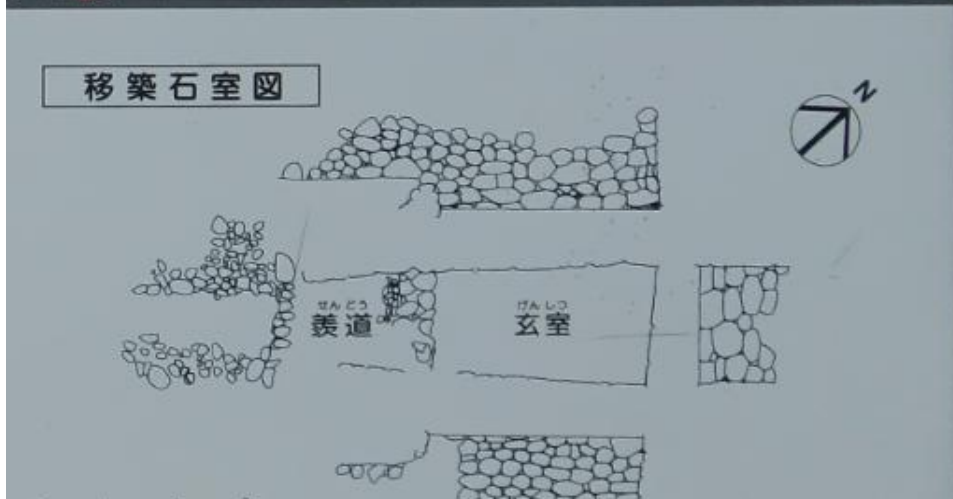
昭和10年の県下一斉の古墳調査によれば、玉村町には53基が『上毛古墳綜覧』に記載され、その後、新たに発見された古墳を含めると、現在では約150基を超えていると考えられています。

しかしながら、昭和30年以降の土地改良などにより、今ではその姿はほとんど地上から失われてしまいました。

この移築された石室は、農業構造改善にともなう土地基盤整備事業により本来は調査後削平される予定のものを移築したものです。比較的遺存状態が良好で、この地域における後期の石室の特徴を多く残していることから、移築復原をすることとなりました。

石室には、6世紀中頃に噴火した榛名山二ツ岳から産出した軽石(角閃石安山岩)が、用いられ、3面ないし5面を削り交互に積んでいく互目積みを採用しています。また、四隅には1石をL字状に整形し組み込むなど、高度な技術も使われています。

| | | | |
|------|-----------|-----------|-----------------------------------|
| 墳形 | 円墳(約径12m) | | |
| 主体部 | 無袖型横穴式石室 | | |
| | 玄室長 | 3.30m | 玄室巾 [奥] 1.18m [中] 1.60m [前] 1.50m |
| | 羨道長 | 2.40m | 羨道巾 [奥] 1.50m [前] (1.20)m |
| | 天井部 | 不明 | |
| 使用石材 | [玄室] | 角閃石安山岩 | [羨道] 角閃石安山岩・安山岩 |
| 出土遺物 | [石室] | 鉄鏃片、刀子片 | |
| | [墳丘] | 円筒埴輪・須恵器片 | |
| 時期 | 6世紀後半 | | |







左から飯玉神社(玉村町小泉)に奉斎されていた1594年造立の五輪塔2基(左側の五輪塔には宝篋印塔の基礎が使われている)、それらの右側が法蓮寺(玉村町下茂木)に奉斎されていた1502年造立の宝篋印塔という



立派な玉村町歴史資料館の建物



ここで配布された貴重な資料の内の一つ「群馬県出土還頭大刀分布図」



【図4・写真27】群馬県出土環頭大刀分布図

玉村町ワイドMAP



玉村町の歴史は古く、上三河の要所として古くから繁栄してきました。平安時代には伊勢神宮の御所となり、戦国時代には交通の要所として上三河、武田、北条の勢力争いの中で置かれました。江戸時代には、水田開墾が進み、かつ日光朝霧街道の御所の面構えとして知られた。

玉村町の指定文化財一覧 (平成23年7月1日現在)

| 種別 | 指定名称 | 所在地 | 種別 | 所有者(管理者) |
|------|------------------|---------------|------|----------|
| 国指定 | 玉村町歴史民俗資料館(国指定) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 国指定 | 玉村八幡町 |
| 県指定 | 玉村町歴史民俗資料館(県指定) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 県指定 | 玉村八幡町 |
| 市指定 | 玉村町歴史民俗資料館(市指定) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 市指定 | 玉村八幡町 |
| 町指定 | 玉村町歴史民俗資料館(町指定) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 町指定 | 玉村八幡町 |
| 村指定 | 玉村町歴史民俗資料館(村指定) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 村指定 | 玉村八幡町 |
| 個人指定 | 玉村町歴史民俗資料館(個人指定) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 個人指定 | 玉村八幡町 |
| 宗廟 | 玉村町歴史民俗資料館(宗廟) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 宗廟 | 玉村八幡町 |
| 神社 | 玉村町歴史民俗資料館(神社) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 神社 | 玉村八幡町 |
| 寺 | 玉村町歴史民俗資料館(寺) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 寺 | 玉村八幡町 |
| 史跡 | 玉村町歴史民俗資料館(史跡) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 史跡 | 玉村八幡町 |
| 建造物 | 玉村町歴史民俗資料館(建造物) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 建造物 | 玉村八幡町 |
| 文書 | 玉村町歴史民俗資料館(文書) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 文書 | 玉村八幡町 |
| 絵画 | 玉村町歴史民俗資料館(絵画) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 絵画 | 玉村八幡町 |
| 彫刻 | 玉村町歴史民俗資料館(彫刻) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 彫刻 | 玉村八幡町 |
| 工芸品 | 玉村町歴史民俗資料館(工芸品) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 工芸品 | 玉村八幡町 |
| 考古学 | 玉村町歴史民俗資料館(考古学) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | 考古学 | 玉村八幡町 |
| その他 | 玉村町歴史民俗資料館(その他) | 玉村町下新田(玉村八幡町) | その他 | 玉村八幡町 |

※国指定、県指定、市指定、町指定、村指定、個人指定、宗廟、神社、寺、史跡、建造物、文書、絵画、彫刻、工芸品、考古学、その他

玉村町歴史資料館へのアクセス



- 1. 歴史民俗資料館(国指定)
- 2. 歴史民俗資料館(県指定)
- 3. 歴史民俗資料館(市指定)
- 4. 歴史民俗資料館(町指定)
- 5. 歴史民俗資料館(村指定)
- 6. 歴史民俗資料館(個人指定)
- 7. 歴史民俗資料館(宗廟)
- 8. 歴史民俗資料館(神社)
- 9. 歴史民俗資料館(寺)
- 10. 歴史民俗資料館(史跡)
- 11. 歴史民俗資料館(建造物)
- 12. 歴史民俗資料館(文書)
- 13. 歴史民俗資料館(絵画)
- 14. 歴史民俗資料館(彫刻)
- 15. 歴史民俗資料館(工芸品)
- 16. 歴史民俗資料館(考古学)
- 17. 歴史民俗資料館(その他)

群馬県立歴史博物館(高崎市)

ここが群馬県立歴史博物館がある「群馬の森」



群馬県庁
群馬の森 GUNMA PREFECTURAL
FOREST OF GUNMA

閉園時間

夏（4月～9月）7時30分～18時30分
冬（10月～3月）8時00分～17時30分

気象条件により、開門・閉門時間が
変更になる場合があります。



利用上のご注意

1. ペットは決められた場所以外、入れません。
2. タバコは灰皿のある場所で喫煙してください。
3. バーベキューやたき火など、火の使用はできません。
4. 公園内にバイク・自転車の持ち込みはできません。
(幼児用自転車を除く)
5. ゴミは捨てないで持ち帰りましょう。
6. 木や草花を傷つけないでください。
7. 公園内の施設を大切にしましょう。
8. 危険な遊びはやめましょう。
9. 他人の迷惑になるようなことはしないでください。
10. 係員の指示には必ず従ってください。

この案内板は、群馬県産材を利用してあります

開園時間

夏（4月～9月）7時30分～18時30分

冬（10月～3月）8時00分～17時30分

気象条件により、開門・閉門時間が変更になる場合もあります。

- 2. 夕
- 3. パー
- 4. 公園
- 5. ゴ
- 6. 木
- 7. 公
- 8. 危
- 9. 他
- 10. 係





これが群馬県立歴史博物館





正面は上野国分寺七重塔復元図



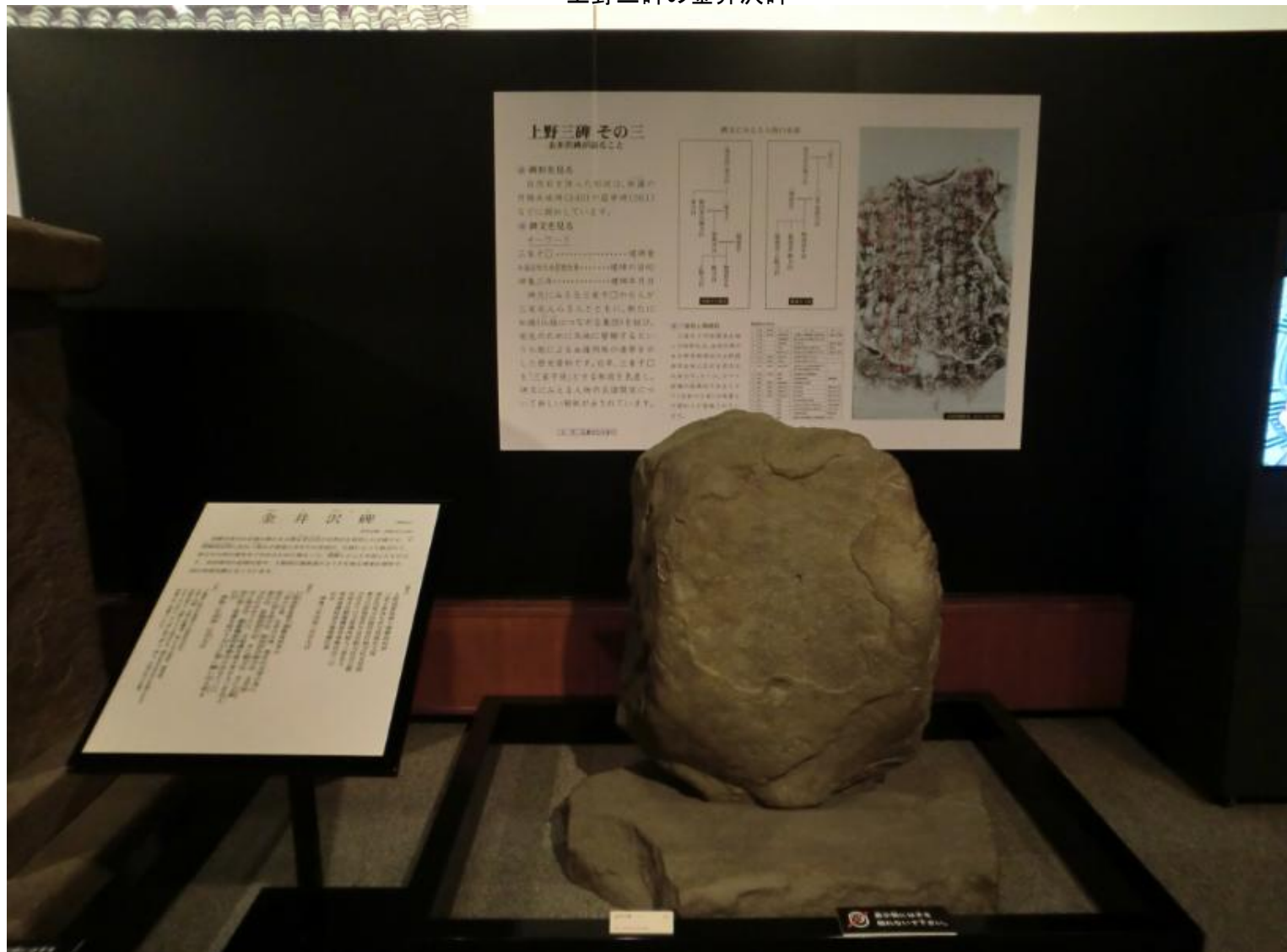
やまのうえのひ
上野三碑の山ノ上碑



たごひ
上野三碑の多胡碑



かないざわのひ
上野三碑の金井沢碑



やまがみのたじゅうとう
山上多重塔



赤城山南麓の台地上にある石造の三重塔/重要文化財/平安時代初期(801年造立)

山上多重塔

〔複製品〕

重要文化財・桐生市新築町山上

赤城山南麓の台地上にある多孔質安山岩製の三重塔で、周辺の地名などから、かつてはここに寺院があったことが考えられます。塔身の上部には経巻を納めた穴があり、三層の塔身の各面には、右まわりに銘文が刻まれております。平安時代初期の仏教信仰を示す貴重な資料で、重要文化財に指定されています。なお、上部の相輪と扉蓋(屋根)は後に作り直されたものです。

〔銘文〕

- (一) 靈舎生衆母父祇神庇例為奉坐釋法如
- (二) 日七月七年廿 曆延輪 道師密
- (三) 岸彼登合衆安得永生衆苦受間無留為

〔読み〕

如法経を坐す。朝廷・神祇・父母・衆生・舎蓋の為に奉る。道師道輪。延暦廿年七月十七日。無間に苦を受く衆生を留し、永く安樂を得て、彼岸に登ら令めんが為なり。

〔註〕

神祇→天・神と地の神々、神々。
衆生→一切の生物、すべての人間や動物。
舎蓋→「衆生に対して」自分の塔の護り。
無間→留断のないこと。無間地獄の味。
彼岸→彼岸(解脱)への悩みをよそよそ。
彼岸→彼岸、解脱、まよふの世界、解脱。

〔意味〕

この塔は、如法経(法華経)を守護するためのものです。朝廷・神々・父母・すべての人々および霊をもつあらゆるものために、私、道師輪が延暦廿年(801)7月17日に建立しました。無間地獄の苦しみを受けているすべての人々が、病氣や心身の悩みをいやし、永遠の安樂を得て、まよりの世界に安んずることができるようにと願ったことです。



正面のパネルは山王廃寺(放光寺)の石製鴟尾(左下)、塔心柱根巻石(右上)、塔の中心礎石(右下)



山王廃寺出土の瓦類



山王廃寺出土の石製鴟尾



上植木廃寺(伊勢崎市)及び寺井廃寺(太田市)出土の瓦類



山ノ上古墳と山ノ上碑



石室の左手に立つ山ノ上碑



仏教のひろまりと墓誌、骨蔵器(火葬の墓)

仏教のひろまり

仏教は国家の保護で、仏による
救済を願う人々の信仰を集めて
発達していきました。

平安時代の初め、比叡山に延暦
寺を建てて天竺を定めた義浄は、
比叡寺(藤原寺浄法寺)を中心に東
国への布教を行いました。

また、金胎天師や山王事変等は、
当時の地産社会への仏教の広まり
の橋手を担っています。

その一方で、天智が骨塚や伎
人などに広まり、上野国でもその
風習が一部受け入れられました。



比叡寺(藤原寺浄法寺)



比叡寺(藤原寺浄法寺)

比叡寺(藤原寺浄法寺)

比叡寺(藤原寺浄法寺)



武士団の活躍

武士団の活躍

平安時代の終わりに成立した武士団は、荘園や国府領、交通の要地に拠点を置いて活動しました。赤城山麓から東北には藤原秀朝の子孫の八幡氏や豊田氏が、秩父周辺や新田荘には新田源氏が、西志には熊谷平氏や荒玉氏が展開しました。源平内亂の過程で彼らの多くは鎌倉幕府の御家人となりましたが、やがて北条氏の専制政治となったため、元弘3年(1333)に新田義貞が挙兵し、鎌倉幕府と北条氏を滅しました。



治承4年(1180)の上野国の情勢

(参考)新編1024頁

源平内亂の経緯

凡例

- 前田一族の拠り所
- 八幡一族の拠り所
- 前田一族の拠り所
- 1180年(治承10)の戦況
- 1181年(治承11)の戦況
- 1182年(治承12)の戦況
- 1183年(治承13)の戦況
- 1184年(治承14)の戦況
- 1185年(治承15)の戦況
- 1186年(治承16)の戦況

新田庄の発達

新田庄の成立

新田庄は利根川と芋川が合流する新田郡南西地域を其開発し、「空閑の郷々」と呼ばれる私領19郷を成立させました。保元2年(1157)に私領を鳥羽上皇の御願寺金剛院に寄進し、花山院藤原忠朝を領家とし、義重と下司(近衛)とする新田荘が成立しました。そして、嘉治2年(1170)には新田郡全境が荘園化されました。以後、新田氏は一族で荘園の現地支配をおこないつつながら在地領主として発展していきました。

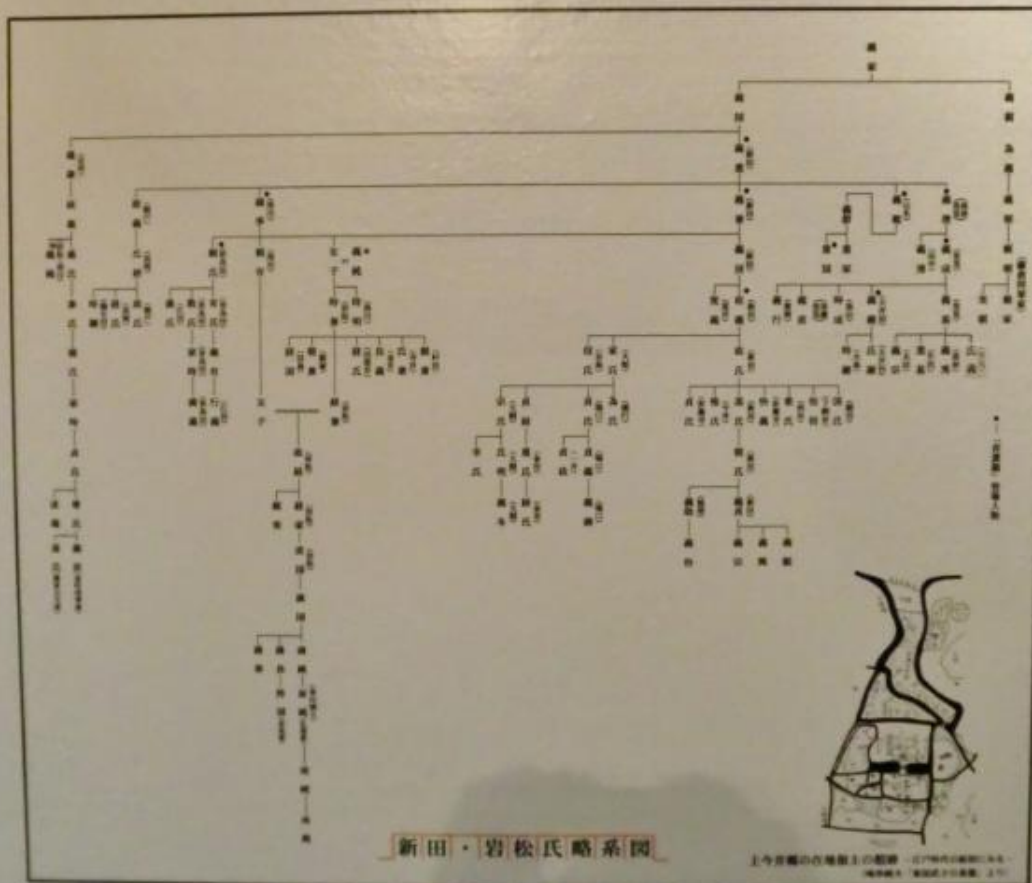
新田庄の成立

新田庄の成立は、利根川と芋川が合流する新田郡南西地域を其開発し、「空閑の郷々」と呼ばれる私領19郷を成立させました。保元2年(1157)に私領を鳥羽上皇の御願寺金剛院に寄進し、花山院藤原忠朝を領家とし、義重と下司(近衛)とする新田荘が成立しました。そして、嘉治2年(1170)には新田郡全境が荘園化されました。以後、新田氏は一族で荘園の現地支配をおこないつつながら在地領主として発展していきました。

新田庄の成立

新田庄の成立は、利根川と芋川が合流する新田郡南西地域を其開発し、「空閑の郷々」と呼ばれる私領19郷を成立させました。保元2年(1157)に私領を鳥羽上皇の御願寺金剛院に寄進し、花山院藤原忠朝を領家とし、義重と下司(近衛)とする新田荘が成立しました。そして、嘉治2年(1170)には新田郡全境が荘園化されました。以後、新田氏は一族で荘園の現地支配をおこないつつながら在地領主として発展していきました。

新田・岩松氏略系図



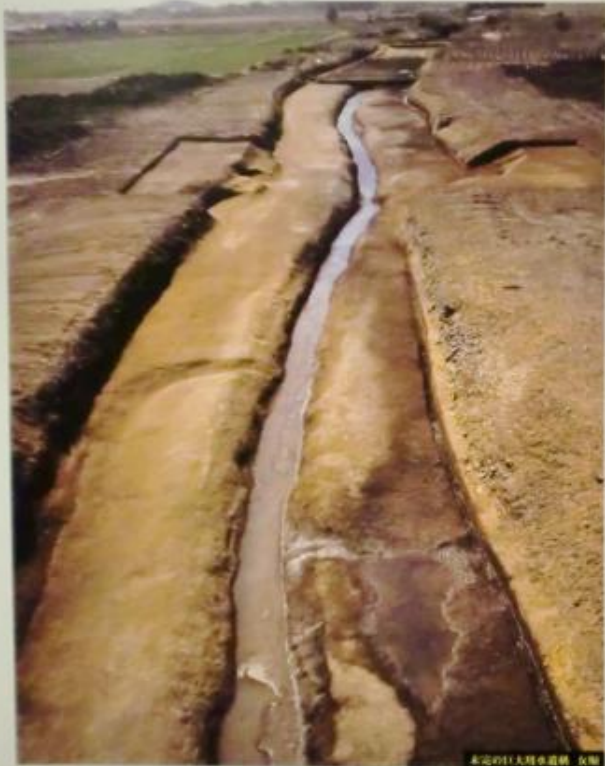
湖名荘

新田荘の発達

新田義貞の転戦



1108年の浅間山噴火の記事(「中右記」より)



北条の巨大河床遺構 複製

号外 浅間山大暴れ

5日開巻された公卿... 会通での九段官... 局左中右藤原長... の要表によると、今... 年(元弘)の夏季(壬午)... 7月21日に上野・信... 濃地域の「御間」茂... 岡山)が噴火してい... たことが上野国司の... 報告でわかった。今... 回の噴火は噴煙が上... 空高く立ち上り、火... 砕石が山麓を降り、... どの道にせよ、上野... 国内各所では火山噴... 出物が堆積し、国府... の版上で大層の火... 山噴出物の降りか... された。太政官御休... によると、上野国内... 野田島はすでに燃焼... したことを記し、後... には再興の無い状態... になるこの見方を強... めている。上野国で... はおよそ20年前の昔... 暦年間にも浅間山の... 火山噴出物の降りか... 降を待たず、御休言... 野の権中納言中山宗... 志等は自身の日記に... このことを記し、後世... の教訓に備えるとし... た。

上野国田畠 壊滅的被害



中世の幕開け - 災害、そして復興への挑戦 -

仁治の碑(1243年造立)



仁治の碑 【複製品】

京都府下高野寺六年建立
 京都府立総合文化センター
 仁治四年（1243）

高さ 約6.5m
 最大幅 約3.5m
 礎石 約1.4m

輝石片岩で作られている板碑で、上半分に全明王六仏（大日・阿耨迦・不空・成親・阿闍梨・宝生）に華鬘を加えた六仏の種子が、その下に「仁治四年大蔵二月廿六日」の横書と建立者の名前が刻まれています。

墓内の板碑では、仁治元年、三年に次ぐ古いもので、初発掘板碑として貴重なものです。

仁治四年大蔵二月廿六日

| | | | | | | | | | |
|---|--------------------|----------------|----------|--------------------------|-----------------------|----------|----------|----------|----------|
| 日 | 小野 少将 口 口 | 六人 部兵衛 重 | 小野 友吉 | 物部 阿安 藤原 澄 口 | 沙 口 口 口 口 | 小野 田友 | 壬生 忠家 | 藤原 孝範 | 藤原 家文 |
| 年 | 乙未 | 丙申 | 丁酉 | 戊戌 | 己亥 | 庚子 | 辛丑 | 壬寅 | 癸卯 |
| 月 | 二月 | 二月 | 二月 | 二月 | 二月 | 二月 | 二月 | 二月 | 二月 |
| 日 | 廿六 | 廿六 | 廿六 | 廿六 | 廿六 | 廿六 | 廿六 | 廿六 | 廿六 |

| | |
|---|---|
| 遠 | 萬 |
| 亦 | 亦 |
| 矣 | 矣 |

大正
 〇〇

板碑や五輪塔などの石造物が造られ、そして虚空蔵菩薩や十一面観音が祀られる中世の信仰

中世の神と仏

Medieval and Post-medieval Age

中世になると、仏教が武士や庶民の間に浸透し、密教、浄土教、禅宗でそれぞれ独特な造形美が生み出されました。また、死後の冥福を祈るための五輪塔や板碑などの石塔がつけられました。

中世では神を仏の化身とみなす本地垂迹説が定着し、神々が宿る赤城山や榛名山の霊場や里の村々では、修験道の行者などによって赤城神の本地仏である虚空蔵菩薩や榛名神の本地仏である十一面観音などが祀られました。

『中世の神と仏』



赤城山系神社の分布図



ひなたみ

日向見薬師堂(重要文化財)模型/1598年再建/禅宗様式/群馬県最古の建築物





ひなた みやくし どう
日向見薬師堂(1/10模型)

所在地 吾妻郡中之条町四方371
国指定重要文化財

禅宗様(唐様)の特徴をよくとどめた本県最古の建築物です。温泉の神様湯前明神の本地仏薬師如来を祀った堂で、附属の棟札によると天文6年(1537)以前の創建と伝えられていますが、現存の堂は慶長3年(1598)に山田綱定が沼田城主貞田信幸の武運長久を願って建立したものです。奇棟造りで茅葺き、方3間の四間に縁をめぐらし、内部は前方2間を外陣、後一間を内陣としてその境に格子戸をはめこんでいます。薬師堂の前にあるお籠もり堂(町指定重要文化財)は湯治客が多難して病氣平癒を祈願するためのものです。

《構造の特徴》

12世紀に宋から伝わった禅宗様の最大の特徴は柱と柱を平行材で貫通させる貫(ぬき)という技術です。これによって軸組の強度が飛躍的に増したことで、テコの原理で屋根と庇を支える枯木(はねぎ)を放射状にいくらかでも置くことができるようになったので、柱の数を減らして自由な間取りが可能となりました。また、それまでの垂木や斗拱などの架構システムはただの飾りとなりました。

《巻瓦の特徴》

薬師堂には、頭貫(柱の上部を貫く部材)、台輪(頭貫の上に置く水平材)、椽柱(柱の上端又は下端をすばませる)、棧唐戸、葺座、鏡天井などに禅宗様の特徴がよく表れています。また、出組や枿、木鼻(貫の先端)の雲形文(縁り型)や唐草の渦の巻き方などに室町末期の特徴が見られます。その一方で、和様の特徴である平行垂木なども見られます。



ひなた みやく し どう

日向見薬師堂(1/10模型)

所在地 吾妻郡中之条町四万371
国指定重要文化財

禅宗様(唐様)の特徴をよくとどめた本県最古の建築物です。温泉の神様湯前明神の本地仏薬師如来を祀った堂で、附属の棟札によると天文6年(1537)以前の創建と伝えられていますが、現存の堂は慶長3年(1598)に山田綱定が沼田城主真田信幸の武運長久を願って建立したものです。奇棟造りで茅葺き、方3間の四周に縁をめぐらし、内部は前方2間を外陣、後一間を内陣としてその境に格子戸をはめこんでいます。薬師堂の前にあるお籠もり堂(町指定重要文化財)は湯治客が参籠して病氣平癒を祈願するためのものです。

《構造の特徴》

12世紀に宋から伝わった禅宗様の最大の特徴は柱と柱を平行材で貫通させる貫(ぬき)という技術です。これによって軸組の強度が飛躍的に増したことで、テコの原理で屋根と庇を支える桔木(はねぎ)を放射状にいくらでも置くことができるようになったので、柱の数を減らして自由な間取りが可能となりました。また、そ

れまでの垂木や斗供などの架構システムはただの飾りとなりました。

《意匠の特徴》

薬師堂には、頭貫かしらぬき(柱の上部を貫く部材)、台輪たいわ(頭貫の上に置く水平材)、ちまきばしら粽柱(柱の上端又は下端をすぼませる)、せんからど棧唐戸せんからど、わらざ藁座わらざ、かがみてんじょう鏡天井などに禅宗様の特徴がよく表れています。また、出組でぐみや榼か、木鼻きびな(貫の先端)の雲形文(繰り型)や唐草の渦うずの巻き方などに室町末期の特徴が見られます。その一方で、和様の特徴である平行垂木なななみなども見られます。



正面は前橋市天神山古墳出土の三角縁神獸鏡/4世紀



前橋市天神山古墳のさまざまな出土品



赤堀茶臼山古墳の家形埴輪/5世紀前半



主屋

が多く、武人的性格が強いことも特徴です。

5世紀も後半になると、各地に全長100mクラスの前方後円墳が築かれ、それぞれの地域に有力な首長がいたと考えられます。



堅魚木を棟にあげた切妻造



倉庫の家形埴輪(右二つ)



保土田古墳群に葬られた地域首長の政治的拠点とされる三ツ寺 I 遺跡の豪族居館



6世紀半ばの榛名山ニツ岳の噴火による軽石にパッキングされて、当時のままに残った「日本のポンペイ」といわれる黒井峯遺跡



御富士山古墳出土の長持形石棺/5世紀





お富士山古墳の長持形石棺 (複製品)

伊勢崎市安楽町
古墳時代 5世紀

蓋石・底石と4枚の側石を組合せて作った石棺で、長さ261cm・幅115cm・高さ105cmという大きなものです。砂岩を加工したもので、運搬のための縄掛突起、組合せのための溝がつけられ、蓋は竹を割ったように丸味を持たせるなど手の込んだものです。

長持形石棺は4世紀末から5世紀にかけて、畿内地方を中心とする第一級の古墳で使われたもので、大豪族の遺骸を葬るにふさわしいものです。東日本ではこのほかには、東日本随一の大きさを誇る太田市天神山古墳の例がわかっているのみで、大和の中央政権との強い結びつきを伺わせます。

お富士山古墳

| | | |
|-----|----|--------|
| 墳丘 | 全長 | 125.0m |
| 前方部 | 幅 | 83.2m |
| | 高さ | 5.5m |
| 後円部 | 径 | 77.2m |
| | 高さ | 9.5m |



様々な各古墳の出土品



綿貫観音山古墳出土の豪華な副葬品と埴輪



埴輪が立つ中庭



こんなブロンズ像があった





2 古代

- ヤマト政権が成立する(3世紀)
- 前橋天神山古墳がつくられる(4世紀)
- 太田天神山古墳がつくられる(5世紀)
- 碓氷観音山古墳がつくられる(6世紀)
- 山上碑がつくられる(681)
- 平城京に遷都する(710)
- 多治郡が新たに設置され、上野国が14郡となる(711)
- 金井沢碑がつくられる(726)
- 上野国分寺が完成する(750年頃)
- 平安京に遷都する(794)
- 山上多重塔がつくられる(801)
- 浅間山が噴火し、上野国内に大被害をもたらす(1108)



▲太田天神山古墳模型



▲多治碑(複製)

むらの統合を進めた豪族は、4世紀から5世紀にかけてヤマト政権との結びつきを強めながら、毛野の地に豪族連合を形成し、巨大な古墳を多くつくりました。その後、群馬県地域は上毛野国として国づくりが進み、東アジア大陸からの新しい文化や技術もひろまって、東国の中心として栄えました。

7世紀以後、律令国家の形成とともに、上毛野国は上野国となり、中央集権体制に組み込まれました。また、国家による仏教興隆政策により、上野国内にも仏教がひろまり、国分僧寺・尼寺をはじめ多くの寺院が建立されました。9世紀ごろから地方支配が乱れ、土地の私有化が進み、上野国にも武士勢力が台頭していきました。

3 中世

- 新田義重、「こかの郷々」を義季に譲る(1167)
- 源頼朝、鎌倉に幕府を開く(1192)
- 新田義季、信長朝を招き長楽寺を開く(1221)
- 聖亮氏義、拜志荘宮田(渋川市赤城町)に石造不動明王立像を建立する(1251)
- 新田義貞、鎌倉の北条氏を滅ぼす(1333)
- 足利尊氏、京都に幕府を開く(1338)
- 享徳の乱が始まる(1454)
- 岩松家純、新田荘を寄進し、金山城を築く(1469)
- 戦国大名上杉・武田・後北条氏による三つ巴の戦い(1560~84)
- 豊臣秀吉、小田原の後北条氏を滅ぼし全国を統一する(1590)



▲新田義重遺状(複製)



▲石造不動明王立像(複製)

武士団が営む広大な荘園と軍事力を背景に中世社会が成立しました。

上野国では新田一族らが鎌倉御家人として活躍し、後に新田義貞は鎌倉倒幕に加わりました。ここに始まる長い戦乱の主導権を握っていたのは関東公方足利氏や守護上杉氏でした。戦国時代になると、真輪城の長野氏や金山城の由良氏などの地域権力が台頭しましたが、上杉・武田・後北条氏ら戦国大名の侵攻を防ぐことはできませんでした。武士の間では、呪術的な力によって武運を願う密教と、自身の修行を重んじる禅宗が尊ばれ、これらを学ぶ道場として世良田に長楽寺が開かれました。戦乱に苦しむ人々の間には、死後の世界の幸福を阿彌陀如来に求める浄土信仰が広まりました。

かみつけの里博物館(高崎市)

ここはかみつけの里博物館





豎穴系小石槨/6世紀前半





埴輪棺



円筒埴輪をいくつか使って棺に利用したもの





下芝谷ツ古墳の飾履(復元品)



履けないくつ 下芝谷ツ古墳の飾履の復元品

下芝谷古墳から発見された飾履は、今のところ国内発祥の材料であり、次のような特徴をもっている。

- 金メッキした銅製4枚で作られている(数通は2枚)。
- 足先部分に文字をデザインし、通し糸やササギ糸で縫われる。
- 対称的に足の楕圓に合わせたガラス玉を押し込み、半履の形を製り付ける。

このような装飾や製作の細み合わせは平面的にも異ならず、どこで製作されたのか、どういった経緯で埋葬品にもたらされたのか大きな疑問を投げかけている。

また、このくつは、裏にもガラス玉が付けられており、履いて歩くことができない。このため、飾履が葬送用のものと考えられる。

Around the 5th or 6th century, in the Katsuga Peninsula, ornaments made of gold, silver and gemstones were used as grave representation. Unlike the evidence of that, in Japan the golden ornaments came into being. In them, ornamental shoes of Tsukagumi are excavated in the country, and the excavation from Shimazaki Tsukagumi Kofun is the same at present. There is no other shoe of bronze and making techniques like this in the Katsuga Peninsula, and the point where this was made or spreading are problem. This shoe has ornaments at the sole. So it is considered that this shoe was an ornament for practical use, but for a ceremony and a funeral.

三ツ寺 I 遺跡・発掘時の模型



中庭に立つ埴輪群



参考ホームページ

http://www.town.tamamura.lg.jp/rekishi_bunka/rekishi_shiryoukan/

<http://grekisi.pref.gunma.jp/>

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/soshiki/kamihaku/>

なお、八幡塚古墳(高崎市)及び二子山古墳(高崎市)のレポートは別ファイルをご覧ください。